

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 08010030

政策目標	2	めぐもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	8	子育て・子育ての充実	事業優先度	B		
単位施策	2	「子育て」支援の強化	政策事務分類	2 単独自治事務(個別計画)		
事業名	一時預かり事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	8 保育所		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	利用延べ人数			#N/A		
事業目標	年間350人		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加	無		関係例規・法令名	有 雄武町一時預かり事業実施要綱		
住民協働			関係個別計画名	有 雄武町次世代育成支援行動計画		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	緊急時における保育対応	一時預かりの受入れ	一時預かりの受入れ	一時預かりの受入れ	一時預かりの受入れ	一時預かりの受入れ
	事業費(千円)	5,000	1,000	1,000	1,000	1,000
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	732	200	133	133	133
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	3,000	600	600	600	600
実 績 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	140		140		
	道支出金	310	170	140		
	地方債	0				
	その他	411	147	264		
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	一時預かり使用料 子育て支援対策事業補助金(H25) 保育緊急確保事業費補助金(H26) 地域子ども・子育て支援事業交付金 (H27～H29)	【評価・実績】	一時預かり保育実施 (延べ人数 102人)	一時預かり保育実施 (延べ人数 165人)		
			※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	年間350人	年間350人	年間350人	年間350人
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	39%	69%	0%	0%
		全体達成率	8%	22%	22%	22%
	事業進捗状況	☆☆☆	☆☆☆			

事業名	一時預かり事業	評価者 管理職 職氏名	保育所長	中村 文隆
		評価者 作成者 職氏名	児童保育係長	斉藤 智美

様式1
平成26年度実施
平成27年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	就学前の児童	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	利用人数
【抱える課題やニーズは】	核家族化などが進み、一時的に子どもを預けられる環境が減少している。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	緊急時において、一時的に子どもを預けることができる支援。また育児疲れ等による保護者の心的、身体的負担軽減を図る。	① 年間利用延べ人数	目標年度 平成26年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	乳幼児をもつ保護者の育児不安を和らげ、健全な子育て環境を維持する。		目標値 350人
			実績値 165人
		②	達成度 47.1%
			目標年度 年度
			目標値
			実績値
			達成度 %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	一時的な保育所受入れ	保護者の就労、疾病等により子どもの保育ができない場合、又は保護者の育児不安軽減のため一時的に預かる。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	本町保育規則及び一時預かり事業実施要綱により、本町子育て支援政策の一環として実施している。核家族化が主体となっている現代では、緊急時において一時的に子どもを預けられる環境が乏しいため、本事業の実施は必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	目標値には達成しなかったが、必要とされるニーズにはこたえることができ、保護者の育児不安を軽減することができた。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	保育所内での受入れであることから、無理なく、無駄なく事業の実施ができた。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	保育所入所要件を満たさない家庭においても、緊急又は不定期就労等の場合に活用できる。また、利用料は利用時間や食事の有無で区分し設定しているため、負担割合は公平である。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
町保育規則及び一時預かり事業実施要綱により、本町子育て支援政策の一環として実施している。母親の入院や家族の通院、短期就労、保護者のリフレッシュ等で昨年度より利用者が増加した。一時的に子どもを預けられる環境が乏しいため本事業の実施は必要である。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
状況等により利用数の変動はあるものの、子育て支援のため必要不可欠な事業である。保護者のあらゆるニーズにこたえられるよう受入れ体制を整え、また、今後も関係機関と連携し、制度周知を充実させたい。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止